

「トヨタ白川郷自然學校」 自然共生プロジェクト

2011年12月16日

トヨタ自動車株式会社

環境部

1. トヨタの森づくり

1) トヨタの想い

豊田綱領

= 1935年 =

(抜粋)

- 一. 至誠業務に服し産業報国の実を挙ぐべし
- 一. 神仏を崇拜し報恩感謝の生活を為すべし



豊田佐吉



豊田喜一郎

トヨタグローバルビジョン

= 2011年 =

(抜粋)

世界中の生活を、社会を、豊かにしていく。
それが、未来のモビリティ社会をリードする、
私たちの想いです。

地球環境に寄り添う意識を持ち続けること。
その先にお客様そして地域の笑顔と幸せに
つながるトヨタがあると信じています。

トヨタの想い

自然と人が共生できる豊かな社会づくり
それを実現する人づくり・森づくり



2) トヨタの森づくり

地域・有識者等の方々と連携し、各フィールドで持続可能な森づくりと人づくりに取り組んでいます。

環境保全・学習



2. トヨタ白川郷自然學校の あらまし

1) 自然学校の概要



2005年4月 開校
2011年6月 来校者累計 10万人超

研修室 (max70名)



催事ホール (max200名)



談話室 (max20名)

宿泊施設
(31室 100名)



研修棟



宿泊棟

所在地

岐阜県大野郡白川村馬狩223

[交通アクセス]



【主要都市からの所要時間】

- 東京から2時間30分 [双田空港-富山空港-東海北陸自動車道]
- 名古屋から2時間30分 [東海北陸自動車道-国道156号線]
- 大塚から4時間 [名神高速道路-東海北陸自動車道]
- 岐阜から2時間 [東海北陸自動車道-国道156号線]

2) 基本理念と運営体制

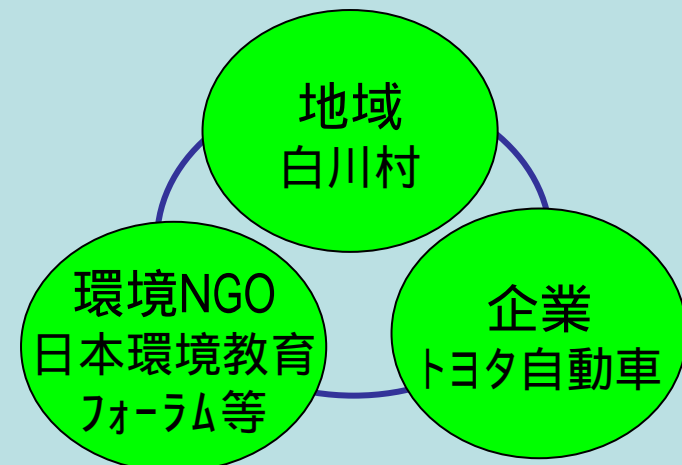
基本理念

- ・自然との共生・地域との共生をテーマに「日本一美しい村に、日本一の自然学校」を創り、安全で、健康的な共生シナリオをご提供し、お客様に感動していただくことをめざします。
- ・子供から大人まで多くのお客様にご来訪いただき、滞在を通じて、自然と共に生きることの大切さを実感し、環境に対する思いを深めていただくきっかけと癒しの場をご提供します。
- ・活動を通じ、周辺の自然環境の保全・回復を図ると共に、白川村の持続可能な発展に貢献・寄与するよう努力します。

運営体制

- ・NPO法人白川郷自然共生フォーラムに運営委託

地域、NGO、企業の三者が連携し合い、
一体となって活動を推進



3) 取り組み

1 環境意識の啓発と癒しの場を提供

一般来客受入、自然体験プログラム・団体プログラム提供 など



2 地域の持続可能な発展に寄与

地域行事(どぶろく祭等)参画、イベント(スーパー林道ウォーキング等)連携、
里山あそび塾(地域子供への環境教育) など



3 日本の自然学校のレベルアップに寄与

環境教育M/T中部事務局として中部圏の環境教育底上げ推進、
インターンシップ受入、震災復興支援 など



4 地域周辺の環境保全・回復

ひだの未来の森づくりネットワーク事務局として飛騨地域の森作り推進、
白山国立公園外来種駆除 など



3 . 自然學校共生プロジェクト

1) 自然学校共生プロジェクト活動の柱

1. 地域・伝統文化との共生

白川郷の伝統文化を尊重し、共生を図る

2. 自然との共生

地域の自然環境保全・回復と生物多様性社会の実現を図る

3. 社会との共生

環境意識・生物多様性の考え方を企業や子供たちへ展開し、
社会全体の環境意識底上げを図る

2) 主要な活動

地域・伝統文化との共生

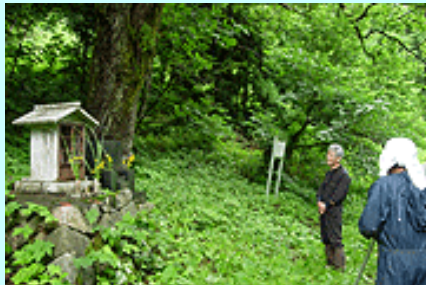
古道ぶしん(馬狩・加須良間古道復元)プロジェクト



2005年
道は藪の中。



2008年
白川村の方も加わって、
蓮如峠まで整備。



2009年
加須良地区の整備を
開始。

茅場復元プロジェクト



自然学校の敷地内に
復元された茅場での
カヤ刈り。



刈りとったカヤを
乾燥。



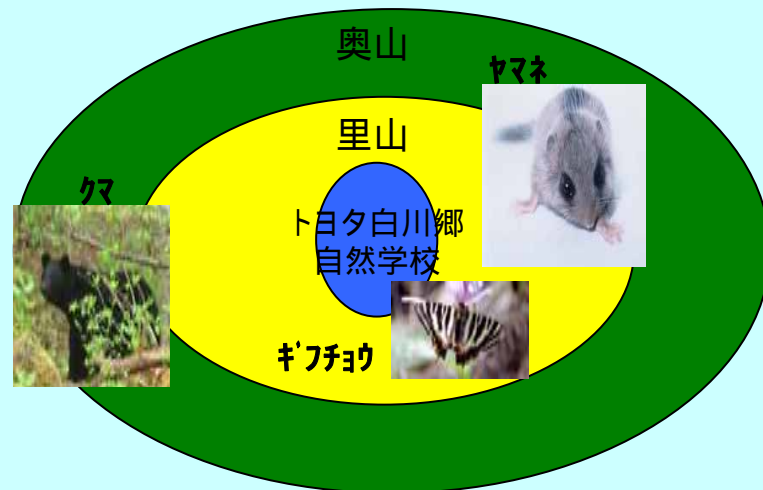
カヤは自然学校の
合掌家屋にも使用。

2) 主要な活動

自然との共生

里山・奥山いきものプロジェクト

- ・トヨタ白川郷自然学校はユネスコ「人間と生物圏計画」に基づいて指定された「生物圏保護区」白山の麓に所在。
- ・里山・奥山を総合的に保全活動を実施するため、指標生物としてギフチョウ(里山)・ヤマネ(中間)・ツキノワグマ(奥山)の希少種3種を選定、調査。



雑木の森手づくりプロジェクト

- ・周辺の森は1971年(馬狩集落集団離村)以前に植えられた杉人工林、アカマツ・ミズナラ等の落葉広葉樹二次林が中心。これを多様な生物の住む自然森林へ誘導。
- ・同時に、運び込まれたトンネル残土の緑化活動を推進。



里山・奥山いきものプロジェクト 「ギフチョウの生息環境維持活動」

- ・産卵数・繁殖状況の定量調査実施、年次変動が大きいことが判明。
乱獲への耐性が脆弱
- ・食草(ウスバサイシン)、蜜源植物(カタクリ)園整備。

カタクリ花畑整備の様子



< ギフチョウ産卵数・繁殖状況調査結果 >

	ウスバサイシン	卵	幼虫
2006年	1055株	974	91
2007年	1927株	0	0
2009年	1938株	393	21
2010年	2340株	137	0
2011年	809株	38	133

里山・奥山いきものプロジェクト 「ヤマネの生息環境維持活動」

- ・巣箱を敷地内に設置して、生息状況調査。(2008年～)
- ・巣箱内での生息確認、捕獲調査を申請中。(2011年)

巣箱設置



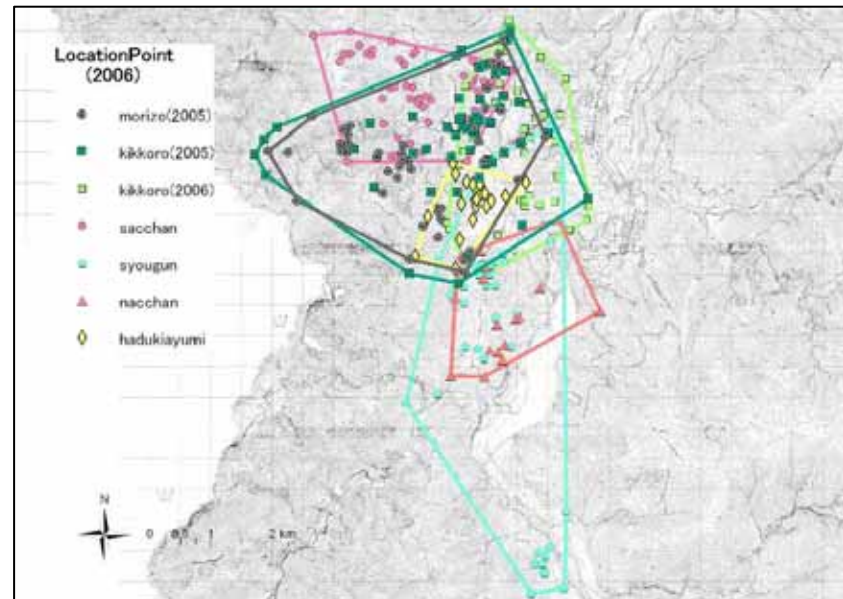
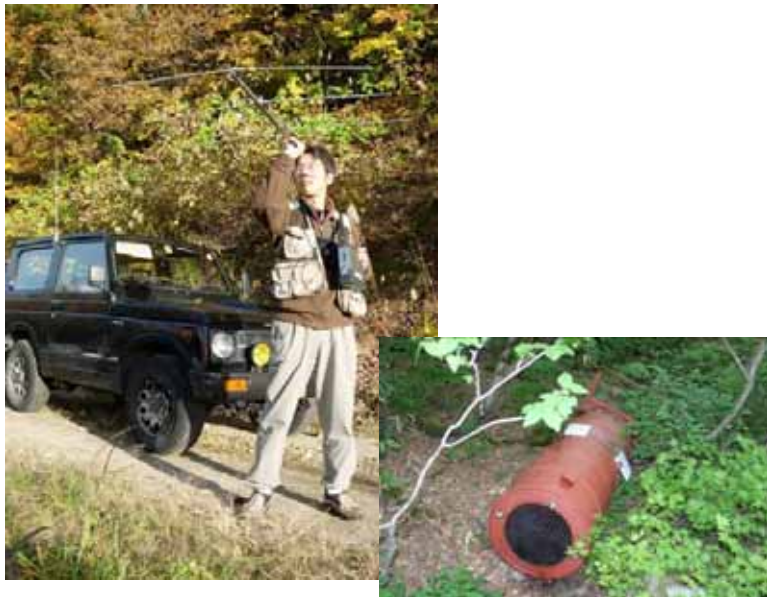
生息確認



里山・奥山いきものプロジェクト 「ツキノワグマとの共生活動」

- ・ ラジオテレメトリによる調査(電波発信機付き首輪を装着した固体の追跡調査)を岐阜大学、名城大学と協働で実施、推定行動圏を把握。
- ・ GPS測位による日周行動の分析により、夏期の敷地内滞在が判明。
- ・ クマと人との緩衝帯を整備し共生を図っていく。

ラジオテレメトリ調査



ラジオテレメトリによって得られた各個体の活動点と100%MCP法(最外郭法)による各個体の推定行動圏

雑木の森手づくりプロジェクト

- ・トンネル残土地への植樹活動、周辺の森の除間伐による林床整備、植樹エリア草刈の継続実施(2005年～)。
- ・白川村の気象・土壌条件により適合した樹種・植樹方法を専門家と検討するなど緑化推進を継続(2011年)。

植樹活動



2005年 トンネル残土埋立地



2009年 緑地が回復



自然共生プロジェクトを環境教育へ

・一般の方やボランティアに案内し、イベントプログラムとして環境教育に活用。

< バタフライウォッチング >



< ツキノワグマ観察プログラム >



< 植樹プログラム >



2) 主要な活動

社会との共生

企業役員・職層別研修、大学生研修

- ・組織の一体感醸成・リーダーシップ育成研修のほか、企業に求められる生物多様性の意識を育成する環境意識啓発研修などを実施。団体の希望に応じてプログラムを企画・提案。

登山研修



- ・グループで山に登る経験は、一体感の醸成・リーダーシップの育成に最適。登頂後は自信と信頼感が生まれ、成長を実感。



小・中学生向け団体プログラム

- ・未来を生きる小・中学生に、環境意識啓発と行うと同時に科学やモノづくりの面白さ、環境技術についても紹介。
- ・将来のリーダー候補生(中学生)に、自然の中での創作活動等を通じ、コミュニケーション力やリーダーシップを養成するプログラムも実施。



環境技術(燃料電池)実験



創作活動

3) 今後の取組み

文化遺産白川郷、自然遺産白山の山麓という文化・自然の恵みに感謝し、そこに住む人々と多様な生き物たちが持続して共生できる森づくりに取組んでいきます。

トヨタ白川郷自然学校を訪れる方々に、「共生」の想いを豊かな自然と環境学習を通して、感じ、共有いただく取組みを続けていきます。



ご清聴ありがとうございました。

